

## 笑顔あふれるひととき過ごす

### 利用者が地元園児と交流

JAなすのなごやかデイサービスでは7月4日、地元伊王野保育園の園児を招き、交流をはかりました。

年長組の園児と先生17人はキャベツの手遊びやカエルの歌を披露するほか、肩たたきをプレゼントするなど、交流を楽しみました。

参加した園児は「うたは大きな声でうたえた。肩たたきをしたら喜んでくれてうれしかった」と笑顔でこたえました。

同施設の渡辺所長は「みんなのいきいきした顔をみられてよかった。昼や風呂をリニューアルするなど、利用者の方により快適に過ごしてもらいたい。これからも利用者のことを考え行動していきたい」と意気込みを話します。



▲園児から肩たたきをプレゼントされる利用者

## 田んぼの生き物と稲の生育を観察

### どではら会と生活クラブが交流会



▲色んな生き物がたくさんいるよ

黒磯地区の米生産者グループ「どではら会」が7月20日、県の生活クラブ生協の組合員に、田んぼまわりの生態系と稲の生育過程を、知ってもらおうと「田んぼの生き物観察会」を那須塩原市鍋掛の交流田で行い、53人が参加しました。組合員らは、5月に植えた苗がもう少しで穂がでる状態を観察しました。その後、田んぼやその周りにはタニシや蛙、バッタなどを観察。子ども達は網で捕まえ、虫かごに入れて大切に持ち帰りました。

同会の横田義弘会長は「実際に生育状況、生育環境を見て貰うことで、安全・安心をうたえていきたい。消費者の生の声を大切にし、今後も良い品質の米を生産していきたい」と話します。

## 与一スイカ38周年記念イベント

### 日頃の感謝を込めて市長や知人を招待

「与一スイカ」の生みの親でもある、大田原市藤沢の金沢茂夫さんが7月27日、日頃の感謝を込めて同市のお食事処「和楽庵」でイベントを行いました。津久井市長をはじめ、知人ら約70人を招待。集まった人は「与一スイカ」の美味しさに舌鼓を打ちました。「与一スイカ」が縁で出会った、演歌歌手のえひめ憲一さんのライブや、ジャンケン大会で「与一スイカ」がプレゼントされるなど、会場は盛り上がりました。金沢さんは「皮が薄く、果肉のシャリシャリ感と、風味が特徴。是非その美味しさを味わって貰いたい」と話します。



▲あいさつをする金沢さん(写真中央)

## なつおとめ摘み取り体験

### 地元小学校の児童ら収穫楽しむ



那須塩原市立戸田小学校が地域学習の一環で7月12日、同市戸田の渡辺正義さんのハウスで、夏秋いちご「なつおとめ」の摘み取り体験を行いました。1～3年生の児童と職員ら合わせて24人が参加しました。渡辺さんから「標高が高いこの地域を活かして夏にも生産出来る」ことを教わり、美味しく味わいました。

金子莉奈さん(8)は「イチゴの摘み取りは初めて。たくさん食べすぎて給食が入らないかも」とニコリ。

その後、児童から「イチゴはどうして三角形なのか」、「どんな栄養が含まれているのか」など質問がされ、渡辺さんと那須農業振興事務所から説明を受けました。